

西郷隆盛さんの隠れた一面を伝える素晴らしい逸話の数々、短編集より

せじごんどのいつか 西郷どんの逸話

「これは恩返しし しるしまでだから」

幼い頃、西郷家に仕えていた一人のおばさんに、米俵を届けたときの言葉です。

幼少時代、西郷さんの家はとても貧乏な暮らしてました。その西郷家で幼い西郷さんたちの世話をし、時には質屋の使いまでして忠実につとめたおばさんがおりました。西郷さんは二十歳近くになり藩の書記役につき、少し生計のゆとりができるようになると、ある日、馬に米俵二俵を負わせ、自ら手綱を引いて、そのおばさんの家を訪ねました。

西郷 「おばさん、おばさん」

おばさん 「お前さんは誰さんな」

西郷 「わしや西郷じゃが」

おばさん 「まあまあ、太とおなりやしたな」

西郷

「これは御恩返ししるしまでだから」
その老婆はあまりのことに嬉し泣きし、声も惜しまなかったということです。

いつになってもお世話になった方々への恩を忘れない、大切なことです。(おわり)

「我が家の修繕なんか しておれんよ」

坂本龍馬が鹿児島を訪問し、西郷家に泊したとき、深夜に西郷さんが糸子夫人と何か話しているの、新婚早々の西郷さんが何を話しているのかじつと聞いてみると、糸子夫人が、「屋根が腐って雨漏りが出て困ります。お客様がおいでになった時など、面目が御座いませぬ。どうか早く修繕してくださいませ」とお願いすると、

「今は日本中が雨漏りをしてる。我が家の修繕なんかしておれんよ」との返事。

この話を聞いた坂本龍馬は、さすが西郷さんだと思ったそうです。(おわり)

心温まる読者投稿

毎年年末に伺う小田原の老舗和食店は、最高の味に併せて、最幸の接客。細かく配りの効く名物女将が帰り際に、「実は読売新聞のいい記事はたくさん取ってあるんです」と、要所にアンダーラインの入った幾つかのスクラップ記事を見せてくれました。そのなかでいくつかの記事が分かりませんが、目に止まった感動の一話を思わずパチリ。読売新聞からし面「ぶらさ」掲載の読者投稿をこちらにご紹介します。

『これからもサポーター』

高校3年生の息子が就職先からの採用通知を持って、学校から帰ってきた。

「よかったね」と言葉を一言一言交わしたと思ったら、友達がお祝いしてくれと、出かけてしまった。

こうやって母から巣立っていくのです。小学校の通知表には「困っている友達に一番早く手を差し伸べる子」とあった。こんな子だからこそ、友達も気にかけてくれるのだと思う。

サッカーが大好きで、小学校から頑張ってきた。ただサッカーをやっているだけではなく、ユニフォームの洗濯や道具の手入れを自分でして、練習に行く前には自分でご飯を作って食べて行っていた。試合に負けた後、洗濯をしている姿を見ると、ぎゅっと抱きしめてあげたいと思ったものだった。

4月からは社会人としてのキックオフだ。素直で頑張り屋だから、きつと気持ちのいい仲間にも巡り会えるはず。母はずっとお前のサポーターだからね。

(埼玉県入間市 A・O 52)

母親にとつて、異性の子どもさんへは愛情の持ち方が違うともいわれます。甘やかすことなく、そして信じてじつと見守り続ける。こちらの息子さんは、そんな親の背中をしっかりと見て育ったのでしよう。きつと今ごろ、社会人として仕事を通じて、「誰かのために」という思いやりの心でいっぱい活躍されていることと思います。心温まることもステキなエピソードとの出会いに感謝です。(おわり)

「1分間でやる気が出る146のヒント」
ドン・エシグ著(弓場隆 訳)より

『笑って健康を保つ』

ユーモアは健康のためにきわめて重要な役割を果たしている。心身の健康を増進するには、ユーモアと笑いを生活に取り入れる必要がある。

UCLA医学部のノーマン・カズンズ教授はエンドルフィンとアドレナリンの研究を通じて、楽しい気分であることが健康に大きな影響をおよぼすことを立証した。彼自身が難病を克服したことが、この考え方の正しさをはっきりと証明している。

ポジティブな感情は、体内におけるポジティブな化学反応と直接的な関係があるという。彼によると、治療を促す主要要因は笑いにあるという。笑ったり気分がよくなりするときには交感神経からエンドルフィンが分泌されるといのがその理由だ。

ユーモアのようなポジティブな感情は、エンドルフィンの分泌を促進する。より多くの笑いを生活に取り入れ、楽しい気分になるように計画してみよう。

この書籍と時を同じくして、「笑い」に係る次のようなお話に出会いました。
医学博士の徳久克己氏は、自分の臨床の経験を通して、著書『心とカラダと運命』の中で、こう書いている。

「顔が笑っている時には、カラダじゅう、全部いっしょに笑っているのです。手や足だけでなく、カラダの中の肺も胃も、心臓も、腎臓も腸も、髪も爪も、血液だって笑っているのです。その反対に、顔が悲しんでいる時には、カラダじゅう全部が悲しんでいるのです。このように、顔の表情とカラダの表情とは切り離すことができない、ということがわかります。顔の表情とカラダの健康と、密接な関係があることもわかります」

感情がカラダと密接に繋がっているとすれば、感情が一番に出る顔がとても重要。健康的な良い年になるよう、年の初めから意識して、『笑顔習慣』顔晴りましょう！

『大切な人に感謝を伝える』

「大切な人」というと、ほとんどの人は配偶者や恋人を思い浮かべる。しかし、あなたの人生で重要な役割を演じているその他のすべての人も「大切な人」ではないだろうか。たとえば、親戚、親友、学校の先生、職場の同僚などだ。これらの人たちが私たちの行動の二本となったり、私たちが価値ある存在だということを保証してくれていたりする。

自分の人生における大切な人たちに電話で話したり、手紙を書いたりしてみよう。あなたが自分の世界を築き上げるのに力を貸してくれたことに対して、その人たちに感謝の気持ちを伝えるのだ。

彼らがあなたにとつて特別な存在であることを知らせよう。彼らにとつて今日は素晴らしい一日になるはずだ。また、そうすることで、あなた自身もどんなにいい気分になるか。考えてみよう。

思いおこせば、たかさんのお世話になった方が浮かんできます。年賀状だけとかではなく、もうひとつ踏み込んだ行動で感謝を伝えなければと感じました。(おわり)

『ああ、面白かった』

皆さんは最近、「ああ、面白かった」といえる体験がありましたか？ 人生の最後に、そんなふうには言えたら最幸です。

有難くご愛読させていただいている、宮崎から世界中に発信している心温まる『みやざき中央新聞』(月4回発行1ヶ月1000円(税別・送料込))から素晴らしいメッセージをご紹介します。

「日本一心を揺るがす」といわれる社説を書かれているのは、魂の編集長、水谷謹人さん。昨年末の最終号、『ああ、面白かった』の人生を」という見出しの社説から少し抜萃してご紹介します。

笑いつばなしの喜劇を観終わったとき、私たちは「面白かった」と言う。ジェットコースターに乗ってもすごい恐怖を体験した後も「面白かった」と言う。セミナー

や勉強会に参加して、とても為になることを学んだ後も、みんな口を揃えて言う、「面白かった」と。

「面白かった」という言葉には、笑いも、涙も、ハラハラドキドキも、恐怖も、数々の苦勞も、みんな含まれている。

「いろいろあったけれど、後悔はしていない」今があるのは、あの時の失敗のおかげ、そう思えたとき、人は「面白かった」という言葉で、人生を振り返ることができる。

そこには、気持ちを分かち合えた人の存在が欠かせないだろう。つらさや淋しき、喜びや楽しき、怒りや悲しみ、そんな感情を共に分かち合ってくれる人がいるだけで、人は幸せを感じるものだ。

人生を面白くさせるのは、きつと共感のある人間関係だと思おう。みやざき中央新聞は共感の広がりを目指してきた。感動した話、面白かった話、涙した話を多くの読者と共感してきた。これからも共感の輪を広げたい。日本中に、世界に。(おわり)

編集後記

職場体験に来てくれた中学生達から、感想状が届きました。細かく、丁寧に書いてくれた内容に、本当に有難く感じました。

「自分のためではなく、他の人のため」

「あなたのために」、「第一印象」、「何事もポジティブに行動」、「元気なあいさつ」、「感謝の心」、「自分にしかできないことをみつける」、「今の仲間との出逢いの喜び」など、それぞれにしっかりと大切なことを感じ取ってくれたようで、とても嬉しいです。

ワクワク子どもたちの笑顔を想像しながらの準備、そして受け入れのあの日の数時間、自分にとつて『最幸に面白かった』体験時間でした。未来ある子どもたちとの学びの時間の共有、毎年の有難い機会のご縁に、心より感謝です。

こうしてミニコミを通じて多くの方へ向けて発信できる立場の幸せ、ご縁の皆様「面白かった」と振り返られる人生の出来事に、ほんのわずかでもお手伝いができましたら幸いです。有難く継続してまいります。本年もよろしくお願いいたします。